

ECB2024, IBS2024 and NBC-24 Congress への参加報告

工学研究科 生命分子工学専攻
博士前期課程2年 井上翔理

出張先：オランダ、ロッテルダム

出張期間：2024年6月29日～2024年7月4日

出張目的：国際学会への参加とポスター発表

【概要】

ECB2024, IBS2024 and NBC-24 Congress (the 19th Congress organised by the European Federation of Biotechnology) は生物工学の国際学会であり、ヨーロッパを中心とした世界各国の参加者とともに開催された。私は Enzyme discovery and engineering のトピックで、“A novel enzyme for methylation of an adhesive nanofiber protein in a toluene degrading bacterium” というタイトルでポスター発表を行った。

【所感】

ECB2024, IBS2024 and NBC-24 Congress にはアカデミアの研究者のみならず企業の研究者も多く参加しており、バイオテクノロジーの社会実装に関する研究発表が多かった。中でも、微生物生産の実験系のスケールアップについて、日本国内との相違を実感した。国内における微生物生産の研究開発では、合成生物学的手法により試験管内で微生物生産の系を確立し、大型の培養槽での実用化に向けてスケールアップしていくという流れが一般的である。一方で、ヨーロッパでは最初から大スケールでの実用化を見据え、大型の培養槽内の環境を模倣して実験室レベルでの実験系を構築するスケールダウンの手法が主流となりつつあった。ポスターセッションでは、実際に生物工学、化学工学の技術や研究プロセスについてディスカッションし、知見を深めることができた。また、自身の研究している細菌細胞表層タンパク質メチル化酵素の工学応用に向けたタンパク質改変方法についても新しい意見を得ることができた。

空き時間にはオランダの街中を散策した。運河が交差する歴史的な街並みやモダン建築の数々を見て回り、地理的、文化的背景についても楽しむことができた。

最後になりましたが、貴重な機会を与えてくださった堀克敏教授、GTR プログラム、また海外出張に関してご支援をいただいた GTR 学生支援室の皆様深く感謝申し上げます。



学会会場 (左) と運河沿いの風景 (右)